2018年2月4日

ロータリー米山記念奨学会財団設立50周年記念式典

廖一久氏の学友代表スピーチ

公益財團法人ロータリー米山記念奨学会小沢一彦理事長、財團設立50周年記念委員會塙 東男委員長、および出席者の皆皆樣、こんにちは：

私がロータリー米山記念奨学生に選ばれたのは、1965年3月から1968年3月の3カ年です。その時、まだ生まれていない方がおられると思いますが、私の推薦クラブは台湾の豐原ロータリークラブ（RC）、日本の愛知県の田原RCです。ここに田原RCの方いらっしゃいますか？

カウンセラーは渥美養魚株式会社の木村さんでした。非常にお世話になりました。どうもありがとうございます。私の修士および博士課程の指導教授は東京大学の大島泰雄先生です。先生は日本の水産増・養殖の先駆者で、東大農学部長を歴任し、著名な栽培漁業の大家でもあります。私が東大入学前には、韓国および台湾からそれぞれ一人の先輩留学生がおられました。韓国からの崔さんは立派なナマコの研究者になり、育ちましたが、台湾からの先輩は残念ながら生活に追われ、中途放棄せざるを得ず、中退いたしました。

私が入学した1962年頃は日本も戦後復興期で、奨学金は皆無に等しい時代でした。大島先生の理念としては、「留学する以上アルバイトはもってのほか、研究に専念すべきである」という一言で、当時の在日台湾同郷会からの奨学金や、家庭教師、または塾での教鞭、および先輩の助けでの金額では生活するのがなかなか苦しい状態でありました。ロータリー米山記念奨学生に選ばれたことは、費用の心配がなく、全心全力研究に打ち込むことができ、おかげさまで1968年3月に博士課程を無事修了することができました。その当時、クルマエビの攝餌生態についての研究はまだあまりなかったのです。私の研究がエビ養殖の産業界に貢献することができたことは望外な収穫でした。

学位を得たことはその当時といたしましてはかなり特筆すべきことでした。誰もが安田講堂で卒業式を行われることを期待いたしておりました。私もそれを期待しておりましたが、大学紛争のために式は挙行されませんでした。しかし、世間のことは、なかなか意に反することが常事だと信じれば、それほど失意することもありません。その当時、安保に反対する学生運動は真っ最中で、安田講堂は学生諸君に占拠され、その後延々と2年ほど続き、その年の東大入試も取りやめになりました。その当時の学生諸君にすれば、私たちの卒業式よりは、はるかに大事な国家の今後の行き先が問われていることだと信じ、安田講堂占拠に乗り出したことと思います。その当時は、そういう状況でした。そういうことになり、私たちの卒業式は先生方のご配慮によりそれぞれ学科の教室でしめやかに行われたことが記憶に残っております。

人生途上、大事な卒業式を迎えることができない以上、私としては先輩がアレンジしてくださった、かの有名な山口県にある「藤永クルマエビ研究所（当時）」で3ヵ月、博士後の研究に励みました。在学中には自分のテーマが最優先で、ほかのことは興味があってもなかなか余裕がありません。藤永研究所では、思う存分、自分がやりたいことができました。私が台湾に帰国後、非常にスムースに研究を進めることができたのは、この博士後の研究のおかげです。今でも感謝しております。こういういきさつがありますので、私は後輩たちに常に、学位取得後、そう急いで帰国する必要はないことを、よく経験から説得するのですが、わかってくださればそれに越したことはありません。

1968年ある日、米山記念奨学会のご招待を受け、台湾に帰る前の集会でテーブルマナーを教えていただいたことは非常に印象に残っております。これは生活に必要なものですね。ですから私は非常に感謝しております。

1968年7月21日、台湾に帰る当日、羽田空港で20数名を超える友人たちが白衣に大きな字で「廖博士萬歳」と書いたスローガンに見送られました。当時、この「万歳」とはタブーでした。なかなか使えない言葉でした。約3時間後、台湾の松山に着きました。豐原の父親と兄弟、友人たちが、台北の松山空港で6年3ヵ月ぶりに台湾へ戻った私を迎えてくれました。その時の写真がここに出ています。

1968年7月より1987年10月まで計19年4ヵ月、無我夢中で屏東県に所在する台湾省水産試験所東港分所をゼロから建設し、世界でも著名な水産養殖センターに育て上げました。この間、ウシエビ、いわゆるブラックタイガーの人工繁殖を世界で初めて成功させ、その後、一時は台湾を世界最大のウシエビ出產地に育て上げました。その他は、からすみの原料のボラ、つまり、からすみボラおよびサバヒーの人工繁殖技術を、世界の他の国より率先・確立して今日に至っております。そのほかにも色々な養殖種の繁殖技術、栽培漁業等の研究に従事いたしました。

1987年10月には台湾省水産試験所の所長に任命され、それから2002年1月16日の定年退職まで、水産試験所の全責任者として、水産養殖はもとより、水産資源および水産加工等の研究指導に携わりました。また、基隆市の本所と8分所のハード・ソフト面の充実や、新しい台東分所と澎湖水族館等の設立、本所立て直しに尽力いたしました。

この間、ロータリーとの関係については、台湾各地のロータリークラブのスピーチを頼まれた場合は必ず引き受けること、各地のロータリークラブ来訪者が来られた場合は引率することなどで多忙な毎日を過ごして参りました。

その後1999年より2016年まで台湾米山会ＳＹ-Ａ奨学生選考委員を担当し、2000年から2016年まで30名の優秀な、台湾ですでに学位を取って、しかし日本に来たことのない学生を選び、日本国へ送り出しました。台湾ですでに学位を取った優秀な学生諸君です。ですから、日本に来てからも非常にスムースに日本の社会に溶け込めます。今まで日本へ行ったことのない青年を数ヶ月から1年間日本へ留学させ、各専門分野において日本の教授の指導を受けさせました。留学後台湾へ戻ってＳＹ－Ａ諸君と意見交流したときに出た結論は、とても有益であったとの答えでした。30人のＳＹ－Ａ諸君の大多数の者はその後も台湾本部と連絡があり、日台間の交流に積極的に活発に動いております。

私事で恐縮ですが、私が数年前、台湾米山会に招かれスピーチを託された時に、「台湾の近代化における留学生の役割」という題で講演をした覚えがあります。その中で、台湾と日本の近代化を比較するうえで私が最も重視するのは、法律や政治の分野です。科学の分野ではなく、政治・法律、そういう分野です。日本の真の強さは、皆さん、確固たる司法の独立性にあり、これが国民の一人ひとりを保護し、真の日本の近代化を築いてきたものと考えます。これからの台湾の人材育成には最重要課題として、より多くの優秀な法律や政治分野の学者を育て、台湾を真の近代化国家に“脱皮”させてもらいたい、というようなことを述べました。

大変嬉しい事に、ＳＹ-Ａ留学生諸君の30名のなか15名は法律や政経分野です。これは私たち9名の選考委員が事前に何ら縛りつけたことのない、自然発展の結果ですこれは本当に嬉しい限りでございます。台湾も、一日も早く日本のように立派な司法が独立した国民の幸せを実現できる国になることを願っております。

最後になりますが皆様と一緒に米山梅吉先生の崇高な人格を讃え、その遺志に従い、献身、サービス、フィードバックの精神を充分発揮しようではありませんか。皆様、どうかよろしくお願いします。

ご清聴ありがとうございました。

以上